

COLUMN

岡崎を去るにあたり

谷川 貴紀

総合研究大学院大学物理科学研究科機能分子科学専攻に在籍、
現在リール第一大学(フランス) 博士研究員

たにかわ・たかのり

2008年度から2010年度まで総合研究大学院大学の博士後期課程学生として、分子科学研究所・極端紫外光研究施設(UVSOR)の加藤グループに所属。2011年2月、同大学にて理学博士の学位を取得。同年5月より現職。高強度超短パルスレーザーと放射光源加速器を組み合わせた高輝度短波長コヒーレント放射光源の開発に従事。

愛車デミオに乗って岡崎の電車通りと呼ばれる県道を走り抜け、自然科学研究機構の守衛室の前で軽く挨拶をし、UVSOR(分子科学研究所(以下、分子研)・極端紫外光研究施設)棟の横に車を停める。隣には休みの日なのに今日も白いコペンが停まっている。総合研究大学院大学(以下、総研大)の同期で居室を共にしている友人の車だ。彼とは、共に励まし合い、一緒に御飯に行ったり、色々馬鹿やったりしたなあと、そんな日々を思い返しながらかこのコラムを執筆している。その傍らではフランス語と思われる楽しげな会話が聞こえてくる。

2008年4月に総研大に3年次編入し、八丁味噌の街岡崎で暮らすこと3年。あっという間の日々だった。生まれてこの方、実家のある兵庫県で学生生活を送ってきたので環境の変化をほとんど感じることなく過ごしてきたが、総研大に入学するにあたり岡崎に引越すということで、まるで英単語を調べが如く、引越し前に三河弁を調べていたことが懐かしい。しかし分子研では三河弁を話す人はほとんど見かけられず、ただの取り越し苦労であった。味噌の街というだけあって、色々なものに味噌を和えて食べる習慣に驚きはしたものの、これが意外と自分に合っていて、また食事は基本的に外食だったので、食事の美味しい店を探すこと

がいつの間にか趣味になっており、岡崎を出る頃には多くの店の人に顔を覚えられてしまっていた。その分お店の人と仲良くなれたのは嬉しく思う。

余談はさておき、岡崎での3年間の研究生活について振り返ってみたい。私は修士の時、兵庫県にある大型放射光施設SPRING-8地区内に建設された放射光源加速器(自由電子レーザー)を使って、一般的なレーザー装置では発生できない波長領域(真空紫外線~軟X線)のレーザー光を作っていた。博士後期課程に進学するにあたり、超短パルスレーザーと光源加速器を組み合わせた自由電子レーザーの理解を深める為、その原理の基礎研究ができる大学を探していたところ、そのような研究を行っている施設が国内にあることを知り、その時に知り合ったのが現UVSOR施設長であり、私の指導教員でもあった加藤先生であった。偶然にも、そこには大学院教育があることを知り、総研大を受験した、というのが入学のきっかけである。

総研大では、大学院の学生しかいない特殊な環境である為、学生数は少ないものの、多岐に渡る分野の学生と交流することができた。特に、分子研は生理学研究所と基礎生物学研究所と隣接していることもあり、分野の垣根を越えた学術交流だけでなく、プライベート



リール第一大学でお世話になっている先生方と研究室メンバーで撮影(筆者は下段右端)。

でも多くの交流を持つことができたことは自分にとって多くの糧となった。また研究面においては、UVSORの職員の方々に支えてもらいながら、自由に研究をさせていただいた。と言っても、限られた時間内で実験を行い、最終年次では学位審査まであとわずかという時間の中、投稿論文及び博士論文の執筆を性急に行わなければならないという、常に時間に追われた生活であった。しかし、多くの人に支えられ、無事審査を終了することができ、学位を頂くことができた。今思い返せば、もう少し頑張ればもっと他に成果を出せたのではないかと等と多々思うところはあるが、正直あの時に戻ることを考えるのは恐ろしい。

そんなこんなで、UVSORの職員の方々だけでなく分子研の先生方にも多くの迷惑をかけたつも、幸い学位を取得できたわけだが、就職先という壁が立ち上がった。自分のやりたい研究を行える環境が整っている場所は、世界的に見てもごく少数の施設しかないからである。色々就職先を探しつつ、SPRING-8で学生をやっていた時にお世話になったフランスのM.E.Coupric先生に相談しようかと思っていたちょうどその時、加藤グループとの海外協力研究という形で光源開発の実験に来て

いたリール第一大学のS.Bielawski先生とC.Szwaj先生から、「うちのプロジェクトでポストクを探しているからフランスに来てみないか」というお誘いを頂いた。しかもそのプロジェクトにはCouprie先生も参加しているとのことで、断る理由が見つからなかった。それに海外の研究者らがいかにして質の高い論文を量産しているのか気になっていたし、何かしら所縁のあったフランスには行ったことがなかったので行ってみたいという気持ちは強かった。しかし言葉の問題（フランス語は勉強したことがない）や、文化や生活環境の違う異国の地で果たして長期生活していけるのかという不安に駆り立てられた。だが、このチャンスを逃したら海外で生活するという貴重な経験は一生できないぞと自分にプレッシャーをかけて、ようやく腹をくくることができ、フランスに行くことを決意した。

渡仏に向けて様々な手続きに追われながら5月からフランスでの生活がスタートした。しかし、その生活はカ

ルチャーショックの連続であった。まず研究者以外英語を話せる人がほとんどいないことである。言葉が通じないのに、これからどうやって生活していけばいいのだろうか。また周りには日本人はおらず、フランスでの生活の仕方もネットで調べておいた内容だけでは全く事足らずであった。そして、ショッピングをしようと思いきや日曜日は飲食店以外は基本お休み。日本のコンビニのような深夜でも開いているお店もない。大学も夜と週末はセキュリティの為に進入するのも一苦勞。こういう状況に初めは全く馴染めず、生活のリズムが作れず厳しい日々であった。しかしそんな自分を救ってくれたのが、自分が好きな中世の西洋建築物の街並みを物見遊山に散歩することであった。また、日本食が恋しくなるかと思いきや、意外とこちらの料理は日本人の舌に合っていて、さらに好きなワインも安く手に入り、つまみにソーシーソンと呼ばれるサラミのようなものとおいしいフランスパンを食

べたりしつつ、ようやくこちらの生活を楽しめるようになってきた。少しずつフランス語も勉強し始め、カフェやちょっとしたレストランなら一人でも行けるようになった。色々トラブルに見舞われながらも、フランスの先生らに助けられつつ、海外生活を堪能している。まだまだフランス語が話せないなので、コミュニケーションに苦勞しているが、大学の人らと外でお日様にあたりながらのコーヒータイムを楽しみつつ、早くフランス語で会話できるように、研究と並行して頑張っていきたいと思っている。

末筆ながら、3年間お世話になったUVSORの先生方やスタッフの皆さん、そして友人ら、これまで陰ながら支えてくれた家族・祖父母らにこの場を借りて感謝を捧げたい。

総研大ニュース

カセサート大学理学部とMOUを締結

平成23年4月より5年間の期間、総合研究大学院大学物理科学研究科がカセサート大学理学部とMOUを締結することになりました。カセサート大学はバンコクにある大学で、もともと農学系の大学でしたが、現在は総合大学になっており、4つのキャンパスがあります。すでにMOUを締結しているタイ国のチュラロンコーン大学と同様に、研究・教育のアクティビティは高く、学生数はタイ国では最大で、5万3千人を超える大きな大学です。これまでもカセサート大学からは、総研大アジア冬の学校などで多くの大学院生

が分子研に訪れています。また、JSPS-JENESYSプログラムにおいても、カセサート大学から毎年数名の大学院生や若手研究者が分子研に短期滞在し、研究活動を行っています。さらに、これらの分子研訪問を契機としていくつかの共同研究も行われています。この度、MOUが締結されたことによって、これまで以上に教育や研究の交流が深められることが期待されます。

(江原 正博 記)



カセサート大学、バンコクのBangkhenキャンパス